

原発ゼロの会・大阪 エネルギー部会だより

2019年9月12日
NO.8
発行責任者 中村 毅

「自治体や市民がつくる電力会社」 9月25日には第3回講座で学び 10月23日には生駒市での実践を視察・見学

沖縄電力を含めて電力10社による地域独占がずっと続いてきた中で、その弊害も顕著となり電力の自由化が実施されました。そうした中で自治体立や市民団体がつくる電力会社が注目されるようになりました。そうした情勢を踏まえて連続講座では、9月25日の第3講で福岡県みやま市の「みやまスマートエネルギー」の磯部達・代表取締役を講師にみやま市での経験を学びます。また、下記のように10月23日には奈良県の生駒市での取り組みを現地に視察・見学します。大事なテーマです。多数ご参加ください。

9月25日の連続講座「第3講」

*テーマ「自治体や市民がつくる電力会社」

*日時 9月25日(水)午後6時30分～

会場 大阪民医連(大阪市中央区南本町)

*講師 磯部 達さん

(みやまスマートエネ株式会社社長)

*話のあらすじ

- ・大半の自治体が抱える課題
- ・電力小売り自由化で広がった可能性

・みやまスマートエネルギー株式会社の設立
経過と様々な取り組み

・ドイツのシュタットベルケによる電力事業

*参加費 800円

*申込み FAX・メールで出来るだけ事前にご
連絡ください。(現在56人の申し込み)

FAX 09-6949-8121 メールアドレス
energy-bukai@genpatsuzer-osaka.com

10月23日には環境モデル都市・生駒市を視察 関電の攻勢で「市民パワー」が苦境の現実も

本年3月29日づけの「朝日新聞」は、「最近劣勢だった関西電力が、原発の再稼働で息を吹き返し、巻き返しに出ている。自治体出資の新電力も苦戦(奈良県生駒市、泉佐野市)。奈良県生駒市の小柴市長が憤るのは近年、近隣の入札で関電が標準料金の最大約5割引きもの安値を提示し、落札する例が相次いでいるからだ。「いこま市民パワー」にも料金を下げろという圧力が高まり、対応に苦慮している。」と報道しています。こうした「いこま市民パワー」を含めて、以下のような内容で視察・見学します。

10月23日の第2回視察・見学会

*日時 10月23日(水) (現在35名の申込)

午後9時、大阪民医連前をバスで出発。

*視察先 奈良県生駒市

*午前中 市の担当者から環境モデル都市アクションプログラムの全体構想、具体的な取り組み、特に「資源循環・エネルギー供給システムの構築」について説明を受けます。

*午後 現場の見学

- ①太陽光発電普及促進事業補助
- ②家庭用燃料電池設置補助
- ③公共施設へのコージェネの導入
- ④新電力「いこま市民パワー」
- ⑤地産地消型カーボンオフセットの普及

*費用 参加費500円、バス代3000円

*事前申し込み FAXかメールで事務局へ